



梅島小だより

『育てること・育むこと』

副校長 鯉沼 哲

すがすがしい風が、青葉若葉を揺らす季節となりました。子供たちの様子も、4月当初に比べると、新しい学年にもすっかり慣れ、落ち着いた生活リズムを取りもどしてきたようです。私も、4月に梅島小学校の副校長に転任してから1か月が過ぎ、ようやく生活に慣れてきました。

さて、新しい学校でどのように子供たちを教育していかなければならないか、初心に帰って考えてみました。私が初任のころ、ある先輩の先生からこんなことを教えていただきました。『教育』とは、二つの意味がある。一つは、『教え育てる』という意味、もう一つは『育む（はぐくむ）ことを教える』という意味がある。』のだと。

『教え育てる』とは、その言葉通り、漢字の書き方や計算の仕方などを子供たちに身に着けさせるために、教えて育てるということです。そして、『育むことを教える』とは、『育む』という言葉は、命を育む、心を育む、愛を育む、友情を育む、というように使われます。『命』『心』『愛』『友情』など、人として必ず身につけなければいけない言葉につきまします。これらは、ただ、教え込んで身につけさせることはできないものばかりです。様々な経験をさせ、人として、これらのことがなぜ、大切であるのかを気づかせ自ら学び身につけさせることだと教えていただきました。

私は、この『育むことを教える』という教育は、決して簡単なことではないとこの時、痛感したのを今でも覚えています。これは、学校の中だけでの教育では決して身につけさせることはできないと思っています。家庭での教育や地域社会の教育の中でご協力いただき、様々な場面で子供たちを育てていかなければならないと思っています。

ぜひ、皆様には、これからも本校の子供たちを温かく見守っていただき、梅島小学校で、梅島の町の中で大きく育てていただければと思います。よろしく願いいたします。

